



12/17支援する会が第7回総会

2026年重点課題と新役員体制を決定

12月17日、「関西生コンを支援する会」は第7回総会を連合会館で開催した。

総会は、池田万佐代さん（I女性会議事務局長）を議長に選出。共同代表の内田雅敏さん（弁護士）の主催者あいさつにつづき、事務局次長の小谷野毅さん（全日建書記長）が2025年の活動経過、決算、監査を報告。拍手で承認したのち、2026年の重点課題と新役員体制を決め、平和フォーラム共同代表の染裕之さんの閉会あいさつで終了した。



2025年活動経過報告の「全体的な特徴」と、2026年の重点課題、新役員体制は以下のとおり。

* * * * *

【1. 活動経過報告】

3. 第6回総会以降の主な活動

(1) 全体的な特徴

2025年、「関西生コン事件」を取り巻く状況はさらに大きく変化しました。

その第1は、最重要事件である京都事件一審で完全無罪判決が出されたこと、確定した無罪判決が4件13人となったことです。

2025年2月26日、京都事件一審で、京都地裁が湯川裕司委員長と武・前委員長の両名に対し、公訴事実4件のすべてについて完全無罪判決を出しました。

同年4月17日には、加茂生コン事件差戻審で大阪高裁が吉田修組合員に再度の無罪判決を言い渡し、検察が上告を断念してこの無罪判決は確定しました。

さらに同年11月18日、コンプライアンス活動第1事件控訴審で、大阪高裁が湯川委員長に対しタイヨー生コン事件について無罪判決を出し、これについても検察が上告を断念したことで確定しました。

確定した無罪判決はこうして現在までに4件13人。「関西生コン事件」が生コン業者団体と警察・検察が一体となって仕組んだ組合つぶし事件であることがいよいよ明確になってきました。（なお、京都事件無罪判決については検察が控訴。）

第2は、無罪判決があいつぐ一方で、今年前半の国賠訴訟の証人尋問によって、とりわけ検察

発行：全日建（全日本建設運輸連帯労働組合） お問い合わせ 03-5830-6418

官らによる組合脱退勧奨や「連帯、削る」発言などをリアルに示す取調べ録画が法廷で上映されたことから、大手メディアが警察と検察の違法捜査の実態を大きく取り上げるとともに、労働組合つぶし事件として「関西生コン事件」を報じるようになったことです。

主な報道だけとりあげても以下のとおりです。

2/27 京都新聞「生コン労組幹部に無罪 脅迫認めず、スト認定」

2/28 東京新聞「生コン労組幹部に無罪判決 恐喝事件化、捜査側の「労組つぶし」

6/16 朝日新聞「「黙秘します」143回それでも取調べ 労組めぐる事件 国に賠償請求

7/2 東京新聞「「どんどん削っていく」検事は言い放った 大量摘発…無罪続出／原告ら「冤罪二度と」」

11/1 東京新聞「労組摘発の違法性否定 組合員の無罪判決相次ぐ中「まさか」」

11/10 NHKクローズアップ現代「検証"関西生コン事件" 相次ぐ無罪判決の背景に何が」

12/1 MBS「労組と弾圧～関西生コン事件 それでも闘う～」

12/1 朝日新聞「産別労組の団結権 問うた「侵害」」

ただし、国賠訴訟一審判決は大方の予想を裏切って組合側の請求をすべて棄却し、違法捜査を追認する不当判決でした。

第3に、国会質問において、厚労大臣から「憲法28条の保護は産業別労組に及ぶ」との答弁、警察庁と法務省から「無罪判決は真摯に受け止める必要がある」との答弁を引き出したしたこと
です。(3月7日参議院厚労委員会、4月21日及び5月26日参議院決算委員会。いずれも大椿ゆうこ参議院議員=当時=の質問)

【4. 活動方針(案)】

1. 2026年の重点課題

2026年は、完全無罪判決を勝ち取った京都事件の控訴審(検察側控訴による)、国家賠訴訟の不当判決を覆すための控訴審のふたつがたたかいの重点課題となります。

国賠訴訟控訴審については、①判決の不当性について世論を盛り上げるための活動(とくにメディア対策)、②署名活動と宣伝物作成、③集会・シンポジウムなどを年明けから準備します。

活動経過報告でみたとおり「関西生コン事件」の潮目は大きく変わりましたが、大阪広域協組の組合つぶし攻撃はいぜんとしてつづいており、京都事件控訴審ひとつをとっても予断を許さぬ状況であることに変わりはありません。

ひとつひとつの出来事に機敏に対処しつつ、全国各地にさらに支援の輪を広げていく観点で運動にとりくみます。

【5. 新役員体制(案)】

共同代表 鎌田 慧(ルポライター)

共同代表 佐高 信(評論家)

共同代表 海渡雄一（弁護士）
共同代表 内田雅敏（弁護士）
共同代表 木下 徹郎（弁護士）
共同代表 菊池 進（全日建委員長）
事務局長 染 裕之（平和フォーラム共同代表）
事務局次長 小谷野 肇（全日建書記長）
事務局次長 土屋トカチ（映画監督）
会計監査 市原 まち子

以上